

『虞美人草』登場人物

Junko Higasa (2013.5.11)

名は体を表す。作者は作中人物の名前に意味を込める。そこで想像してみた。

**甲野家** こうや かぶと 荒野の甲 = レオパルディの「かつての栄光」を意味する。

**甲野欽吾**

頭の甲は、かつての強き男の栄光の子孫を示すと同時に、哲学をかぶる頭でっかち。理論ばかりで行動が伴わない人を「頭でっかち」という。欽吾は「吾を敬い慎む」で、自分を律し尊重し、わが人生道を貫く。

**甲野藤尾**

藤の花の尾は長い。かつての栄光の美を長く存続させ、甲野家を継ぐ役割を担う。また尻尾のあるものは「人を化かす」ものでもある。そして頭の甲は「虞美人草」のように、細い茎で大きな花を支える頭でっかち。洋書を読み教養を高めて表面だけ真似ても、男と同じ感覚・行動を持つことはできない。時代・世情的には、いくら努力しても男と同等の立場で生きることはできない。「虞」のような男社会の犠牲者。

**藤尾の母**

何より世間における自分の立場を気にして、実質より外面を重んじる人。財閥の代表。

**宗近家** 宗(国家・根本)に近いもの。

**宗近一**

根本に近い上にその「一」=始めであり、世間の均一を図り理論よりも行動を示す人。

**宗近糸子**

女性の形として、藤尾という「未来」と小夜子という「過去」を結ぶ「現在」の糸。金がなくても墮落しない、権力によって切れない強い糸。時代をつなぐ正しい糸。

**井上家** 関連

**小野清三**

小さな野=狭い世界に生きる人。「清」は本来「清らか」であるが、清算も意味する。過去の清算をしたい人物。

**井上小夜子**

一井(世間)の中の小さな夜。世間では過去になりつつあるタイプの女性。セレナーデ。

**井上孤堂**

世間で孤立した屋号。西洋化する世の中で忘れ去られていく漢学者、東洋の美点。